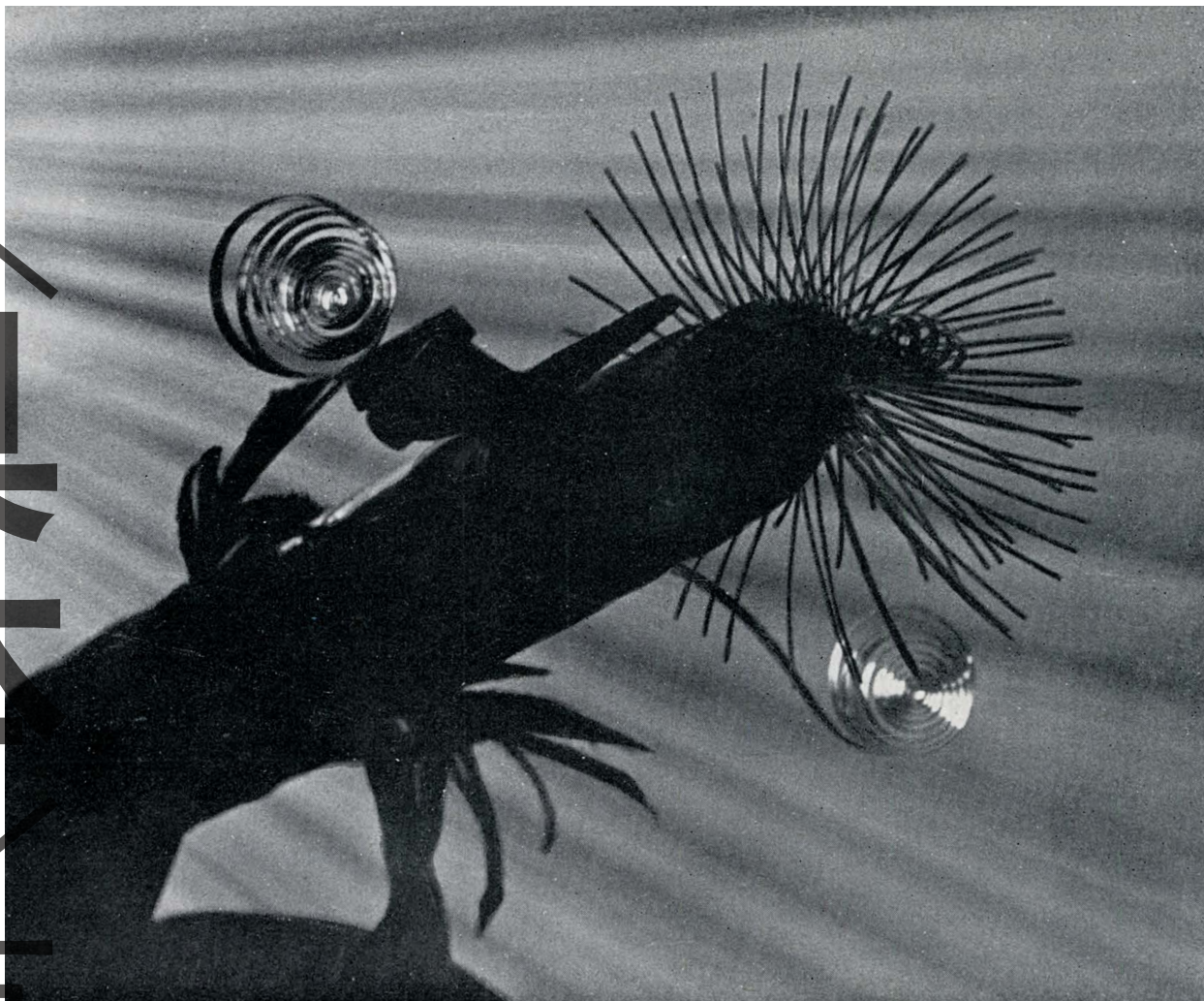


具体／再考



吉原治良《作品》1940年頃 *『九室』第2号(1940年3月5日)11頁掲載

第2回 1930年代の前衛

2017年12月3日(日) 14:00-17:30

大阪大学中之島センター3階 講義室301

定員：60名 聴講無料、事前申込み不要、
当日先着順(13:15より整理券を配布します)

主催：大阪大学総合学術博物館



[会場・交通案内]

大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

tel. 06-6444-2100

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

◎京阪中之島線・中之島駅(6番出口)より徒歩約5分

◎京阪中之島線・渡辺橋駅(1番出口)より徒歩約5分

◎阪神電車・福島駅より徒歩約9分

◎JR東西線・新福島駅より徒歩約9分

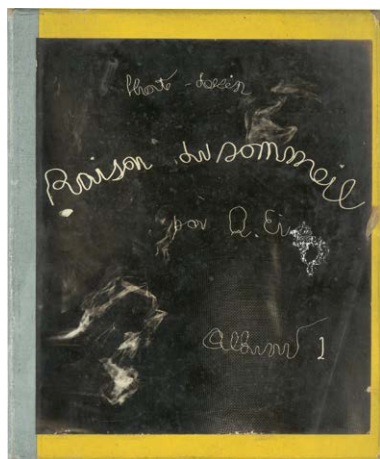
◎JR大阪環状線・福島駅より徒歩約12分

◎地下鉄四つ橋線・肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分

関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」（略称：具体、1954-1972 年）は、激しい身体行為の痕跡や生々しい物質感が特徴的な作品群で知られますが、その活動についてはこれまで、戦前との繋がりあるいは同時期の他の前衛的動向との関わりという観点から問われることがほとんどありませんでした。このような従来の解釈を複数の視点から再考する研究の一環として、2016 年度よりシンポジウムを一年に一度、継続的に 3 回行います。昨年度の「第 1 回 1950 年代の前衛グループ」では、「デモクラート美術家協会」、「実験工房」等と「具体」を比較し、それらの共通性ならびに固有性について検討しました。2 回目となる 2017 年度は、1 回目の論点を踏まえて、「デモクラート美術家協会」、「実験工房」、「具体」それぞれの中心的役割を果たした瑛九（1911-1960 年）、瀧口修造（1903-1979 年）、吉原治良

（1905-1972 年）の接点に注目し、研究者による発表・討議を通して、戦前の 1930 年代にまで遡る彼らの活動やその志向、戦後との連続性などについて考えます。

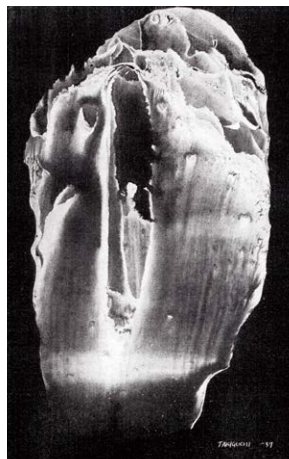
この企画は、大阪大学総合学術博物館で 2012 年から本格的に始まった、戦後大阪の先鋭な美術を検証する一連の研究「シンポジウム「大阪のアヴァンギャルド芸術」（2012 年）、第 16 回企画展「オオサカがとんがっていた時代 戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで」（2013 年）、叢書『戦後大阪のアヴァンギャルド芸術』（大阪大学出版会、2013 年）」を引き継ぎ、さらなる展開を図るものと位置づけられます。なお本シンポジウムは、平成 28 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）課題番号 16K02266「具体美術協会」再考—複合的視点から見直す戦後日本美術の一断面—）による研究成果の一部です。



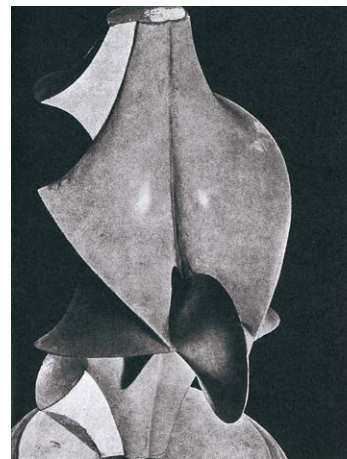
瑛九『眠りの理由』表紙 1936 年
吉原治良旧蔵・大阪新美術館建設準備室蔵
写真提供：大阪新美術館建設準備室（GA 1708）



瑛九《レアル》1937 年
東京国立近代美術館蔵
Photo: MOMAT / DNPartcom



瀧口修造《デカルコマニイ》1937 年
＊『みづゑ』第 387 号
(1937 年 5 月 3 日) 50 頁掲載



マン・レイ『数学的な物体』制作年不詳
＊瀧口修造『物体と写真 特にシュルレアリスムのオブジェに就て』『フォトタイムズ』第 15 巻 第 8 号 (1938 年 8 月 1 日) 65 頁掲載



吉原治良《作品 A》1939-40 年頃
大阪新美術館建設準備室蔵

プログラム 12.3.Sun.

14:00—14:45

瀧口修造の「物体」 接触 写真 幾何学
光田由里

【発表】

14:45—15:30

瑛九は現実をいかに捉えようとしたか
大谷省吾

15:40—16:15

吉原治良の「物質」をめぐる思考
加藤瑞穂

【討議】

16:15—17:30

光田由里 美術評論家、DIC川村記念
美術館学芸課長

主要著書に『写真、「芸術」との界面に：写真史 1910 年代 -70 年代』（青弓社、2006 年、日本写真協会学芸賞）、『高松次郎 言葉ともの—日本の現代美術 1961-72』（水声社、2011 年）等。主要カタログに『安井仲治写真集』（共同通信社、2004 年、倫雅賞）、『野島康三 作品と資料集』（渋谷区立松濤美術館、2009 年）、『WOLS 路上から宇宙へ』（左右社、2017 年）等。

大谷省吾 東京国立近代美術館
美術課長

1994 年より同館勤務、2016 年より現職。同館での主な企画展として「生誕 100 年記念 吉原治良展」（2006 年）、「生誕 100 年 観光展」（2007 年）、「生誕 100 年 岡本太郎展」（2011 年）、「瑛九 1935-1937 闇の中で「レアル」をさがす」（2016 年）等。『激動期のアヴァンギャルド シュルレアリスムと日本の絵画 1928-1953』（国書刊行会）を昨年刊行。

加藤瑞穂 大阪大学総合学術
博物館招へい准教授

1993-2011 年、芦屋市立美術博物館学芸員。2011 年より現職。90 年代半ばより具体美術協会に関する展覧会企画、論文執筆等に取り組む。最新の論文は「金山明の電動機器による描画—具体美術協会におけるその意義—」（『美術史』第 183 冊、2017 年 10 月）。本シンポジウム企画者。



【問い合わせ先】

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043

豊中市待兼山町 1-13 大阪大学会館内
tel. 06-6850-6715（平日 9：00—17：00）
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>